

2024年度事業自己評価公開シート

相愛幼稚園
園長 大城厚子
(公印省略)

1. 本年の教育目標

- ① 神さまとの出会いを通して、神さまから命をあたえられたかけがえのない存在として、愛され守られている事を知り、喜び感謝する心を養う。
- ② いろいろな人との関わりの中で、お互いの違いに気づき、認め合い、共感し、協力する楽しさを味わい、共に生きる力を培う。
- ③ 遊びを中心とした生活を通して、子どもの自主性・主体性を育み、心身の調和のとれた発達と個性の伸長をはかる。
- ④ 神さまの創られた豊かな自然や「子どもの園」としての幼稚園の中で「いのち」と触れ合い、多様な自然の不思議さ、素晴らしさに感動し、「いのち」をいとおしむ心を育てる。
- ⑤ 地球家族の一員として、人と自然との調和や世界の平和に目を向け、なにをなすべきかを共に考え、祈り、行動できる力を育む。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ① 適切な衛生管理をしながら交流を深める保育のあり方を工夫していく。
- ② 大きな行事を土曜日に開催し、多くの保護者が参加できるようにする。
- ③ 「認定こども園」としての保育のあり方を模索する。
- ④ 利用定員を55名にし、少人数保育でより丁寧な保育を目指す。
- ⑤ 「子どもの園」としての園庭環境を充実させる。
- ⑥ 幼稚園教育要領・キリスト教保育について学びを深める。
- ⑦ 配慮を必要とする子ども達の理解を深め、適切な支援のあり方にについて学ぶ。
- ⑧ SDGsを意識した保育をする。
- ⑨ 平和教育を大切にする。
- ⑩ キャリアアップ研修を始め様々な研修を通して保育者の専門性を高め保育に還元していく。
- ⑪ 職員の処遇改善

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
幼稚園の教育課程の編成実施に関して教職員間の共通理解をはかる。	<p>① 魅力ある私学の学校づくりの推進のため教育の質のを向上を図る学校支援事業を利用し教育保育の充実を図る。</p> <p>イ 伝統文化に関する教育</p> <ul style="list-style-type: none">・沖縄の伝統的な音楽に合わせて紅型の衣装をまとい大太鼓、パーランクー等の楽器を用いて踊る。・観劇を通し文化的な表現活動を楽しむ <p>ロ 食育(野菜の植え付け・クッキング・食育に関する情報を子どもの見えるところに展示。保護者には、同じ内容のプリントを配布し、親子で食育について学べるようにした。)</p> <p>ハ キャリア教育(消防署見学)</p> <p>ニ 体験活動(芋ほり遠足等)</p> <p>ホ 運動する意欲や能力を高める教育(体育あそび)</p> <p>ヘ 国際感覚を身に付ける教育(多文化交流)</p> <p>ト 安全の推進</p> <ul style="list-style-type: none">・CAPの学び・AED設置・安全点検の実施 <p>② 教育課程に関しては、学期末ごとに検証し、改善し保育の質の向上に繋がるよう努めた。</p>

評価項目	取り組み状況
<p>幼稚園の状況をふまえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。</p>	<p>①建物の老朽化のため、後20～30年後には、建て替えをしなくてはならない。その為の資金として2021年度より2号基金として積み立てをしていく。積立金に関しては、その年の収支状況を見ながら毎年、理事会・評議員会で検討し決定する。</p> <p>②現在の建物を長く使うために建物のメンテナンスを行う予定であったが補助金が出ないと分かり次年度に持ち越す。</p> <p>③認定こども園の負担割合 ・ 国1/2、市町村1/4 事業者1/4</p> <p>④次年度、屋上の防水工事。太陽光発電の設置。なかよしルームに3台のエアコンを設置し、地球温暖化に対応する。</p>
<p>教育の質の向上のために、園内、外部研修を充実させる。</p>	<p>①幼児の発達の姿をとらえるための研修を定期的実施し、自由闊達に意見が開示できる環境を作っている。 ・ 日常的なカンファレンス ・ 毎月1回のケース検討会議の実施</p> <p>②子どもの降園後、日々の子どもの姿について自由に話し合い、お互いの連携を大切にする。</p> <p>③月刊専門誌「キリスト教保育」を毎月学び合う。時には、実践報告などを投稿し全国の仲間と共に学び合い保育の質の向上に努める。</p> <p>④園内研修において全保育者(午前保育・預かり保育担当)で学び合い、保育の質の向上に努めた。</p> <p>⑤各担任及び保育補助の保育者は、それぞれ学びたい研修を15時間受けキャリアを積んだ。</p> <p>⑥幼稚園教育要領について研修した。 ・ 環境を通して行う教育の意義 ・ 幼児の主体性と教師の意図 ・ 環境の構成 ・ 活動の発展と教師の援助 ・ 環境の構成と保育の展開を学ぶ。 ・ 相愛の実態について話し合い実践へと繋ぐ</p> <p>⑦園内研修にて年度末アンケート、又は、職員の総括を基に話し合い改善が必要な事柄について共通確認し保育に活かしていった。</p> <p>⑧園内研修に理事長を招き、キリスト教保育について学んだ。</p> <p>⑨その他の研修に参加した。</p>

評価項目	取り組み状況
<p>保護者のニーズの把握に努め、適切な対応をはかる。</p>	<p>①随時教育相談を行う。</p> <p>②連絡ノートを活用し連携を深める。</p> <p>③年度末には、年度末アンケートを実施し、子ども達の様子を聞き、保護者の意見や感想を受け止め丁寧に答え、印刷して全保護者、園関係者に配布し、ホームページにも掲載する。保護者の意見も聞きながら保育の質の向上に努めた。</p> <p>④希望者のみの保育参観を行った。次年度改善する。</p> <p>⑤ご意見箱を設置し保護者の声を聞くよう努めた。</p>
4、学校評価の具体的な目標や計画の教育効果	
<p>学校評価を通して園の目指すものがより明らかとなり,子どもたちにとって最善の保育・教育が実践できるよう、様々な点で保育の質を向上させること事ができるようになる。</p>	
5、今年度取り組んできた課題	
課題	具体的な取り組み方法
<p>安全管理</p>	<p>①感染症の感染拡大防止対策をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正門での手指のアルコール消毒(3月より任意とする) ・各クラス子どもの触る場所等の消毒 ・手洗い・換気 ・空気清浄機で部屋の空気の汚染度を測り、清浄する。 ・マスク着用については個人の判断に任せる。子どもは強要しない。 ・通園バス2台を毎日消毒し換気する。 <p>②2台の通園バスに子ども置き去り防止「かくにん君」を搭載し、子どもが残されていないか3重チェックし安全を確保した。 「バスの安全マニュアル」を作成し安全確認を、添乗員・運転手・消毒清掃員が確実にに行い、置き去りなどが発生しない様体制を整えた。</p> <p>③子どもの所在を確認する為「子どもの確認マニュアル」を作成し、9時半までに登園せず連絡もない子の保護者に対して園から所在確認の連絡を行った。3月からは、新年度に向けてデモンストレーションとしてiPadを使って子どもたちの登園時間、降園時間を保護者に登録してもらい園児の所在確認を行った。</p> <p>④AEDをレンタルし、常時園に設置した。いつでも使えるように園内研修で使用方法を確認する。業者と連携し、機器の状態を常に正常に作動するか管理している。。</p> <p>⑤園内の遊具や環境の安全確認を丁寧にし、危険な</p>

	箇所が見つかりと直ぐに改善できるものは改善し、予算化しなければならないものについて応急処置をし、時期を見計らい早急に対応できるようにした。
--	---

課題	取り組み状況
安全管理	<p>⑥学校薬剤師による環境衛生調査の実施し、適切な環境と確認した。</p> <p>＜2024年度の結果＞ 2025/2/25検査実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲料水(適合) ・騒音(問題なし) ・照度(適合) ・空気環境(教室の二酸化炭素検査の結果401ppm ほぼ戸外の大気と同じでよく換気がなされている) ・ダニ・アレルゲン検査(学校衛生基準に適合する)
特別支援教育	<p>①園の発達アドバイザー(専門家)と連携し、子どもへの適切な関わりについて学んだ。</p> <p>②那覇市の巡回指導を受け子どもの観察、保護者専門員・担任、保育補助、園長で話し合い子どもの成長を確認し今後の対応の仕方についても共通確認した。</p> <p>③インクルーシブ教育(多様な子ども達と共に生き、お互いを尊重し助け合い共に生きる力を育む教育)の質を高める学びをした。</p> <p>④医療、福祉の関係機関との連携を深め、その子により良い育ちの環境を共に作れるよう連携をとった。</p> <p>⑤保護者も希望があれば専門家と直接お話が出来る機会を作る。実施できた。</p>
保護者との関係性の充実	<p>①学年度末には、保育・教育アンケートを実施し、保護者の園に対する思いを知る事ように努め、保育者との共通認識を深め改善すべき点は改善し保育の質の向上に努めた。</p> <p>②子育てに役立つ情報を提供したり、親の学びの時をつくり子育てを支援する。がじゅまるの会(保護者会)が子育て講演会実施しとてもいい学びの時となった。</p> <p>③ペアレントトレーニングを実施。子育ての基本を学べる機会を作り、保護者が安心して子育てができるようサポートする。</p> <p>④転勤で来られた方も安心して子育てができるよう保護者同士、子ども同士のつながりが作りやすい環境を整えていく。がじゅまるの会(保護者会)が大きな役割を果たしている。</p> <p>⑤保護者会との話し合いの場を持ち連携を深める。</p> <p>⑥プロのカメラマンに日常の子どもの様子、各行事様子を撮影してもらい保護者が閲覧し、写真を購入できるようにした。</p>

	⑦給食のメニューを毎回撮影。保護者へアプリで送信し、食事の内容を共有した。
課題	具体的な取り組み方法
環境の整備	<p>①子ども達と一緒に花の苗を植えたり、種蒔きをし、教育環境を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり、アサガオ、コスモス、キュウリ、じゃが芋、ネギ、チューリップ、ミニトマト、ニンジン、枝豆、二十日大根、じゃが芋、イチゴ等、その他いろいろな種類の花の苗 <p>②子どもたちが、虫取り、草花あそび、木登り、どろんこ遊びや木の実を食べたりできる自然豊かな環境作りに努めた。</p> <p>③施設の改修工事及び環境整備 ＜2024年度＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ひばり組トイレ側のベランダ・ノア組ベランダウッドデッキ(床)の張替え 2. りす組正面に整理棚を取り付けた。 3. 雨水タンク配管工事 4. ブランコの買い替え 5. 屋外の放送設備を取り替えた 6. 卓上型アンプの取り換え 7. ノア組用食器乾燥機取り換え 8. クラス用タブレット4台購入 9. Wi-Fi環境を整えた
職員の処遇改善	<ul style="list-style-type: none"> ・処遇改善Ⅰ・処遇改善Ⅱ・処遇改善Ⅲの給付があり、全職員の給与をアップすることができた。 ・保育者の離職を防ぐための「保育士離職抑制対策事業補助金」を利用し、朝の通園バス専任補助員と事務の補助を付けた。職員の早朝出勤が1回無くなりシフトが緩やかになった。又、事務職員の補助員を付けることによりゆとりが生まれた。